

平成26年度 全国学力・学習状況調査 の結果について



平成26年11月
泉南市教育委員会

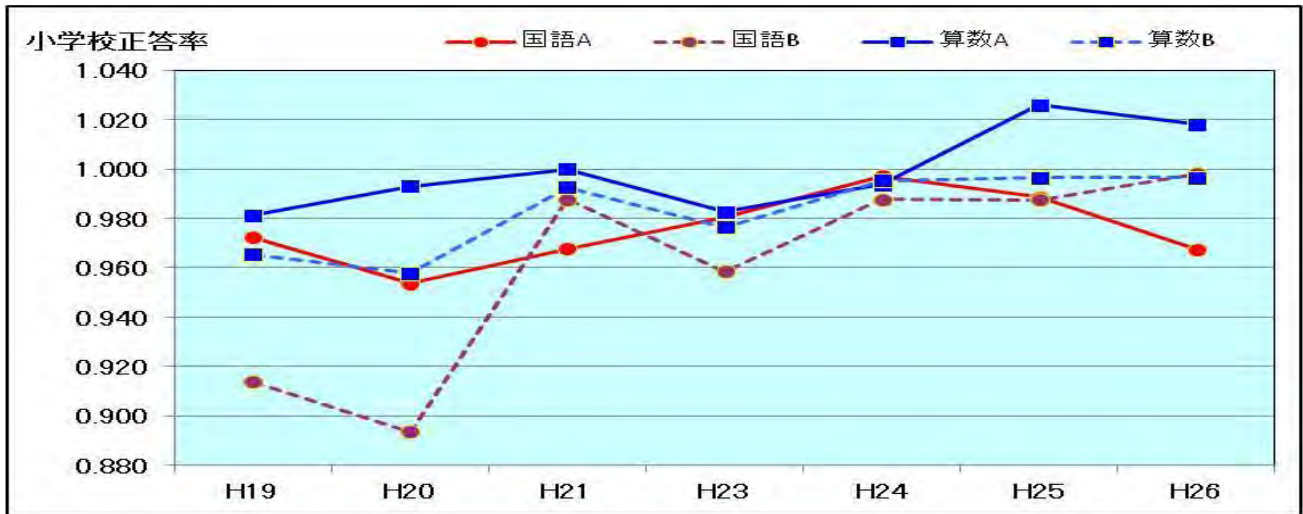
小学校の結果の概要

1、 経年変化の様子 対象学年は第 6 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査			
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5

算数	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査			
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2

2、 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



- 小学校では、昨年に引き続き、算数 A が全国平均を上回った(0.6 ポイント)。活用の力が問われる国語 B、算数 B は大阪府や全国の平均に近づいた24年度のレベルを維持している。国語 A については25年から2年連続でポイントが下がっている。

3、 課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語 A	故事成語の使い方として適切なものを選択する(五十歩百歩)設問の正答率 38.2%(-17.6)
国語 B	立場を明確にして、質問や意見を述べる事が求められる設問の正答率 21.8%(-6.5)
算数 A	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることが理解しているかどうかをみる設問の正答率 55.2%(+1.1)
算数 B	示された情報を基に判断し、その理由を言葉と数を用いて記述する設問の正答率 28.5%(-2.1)

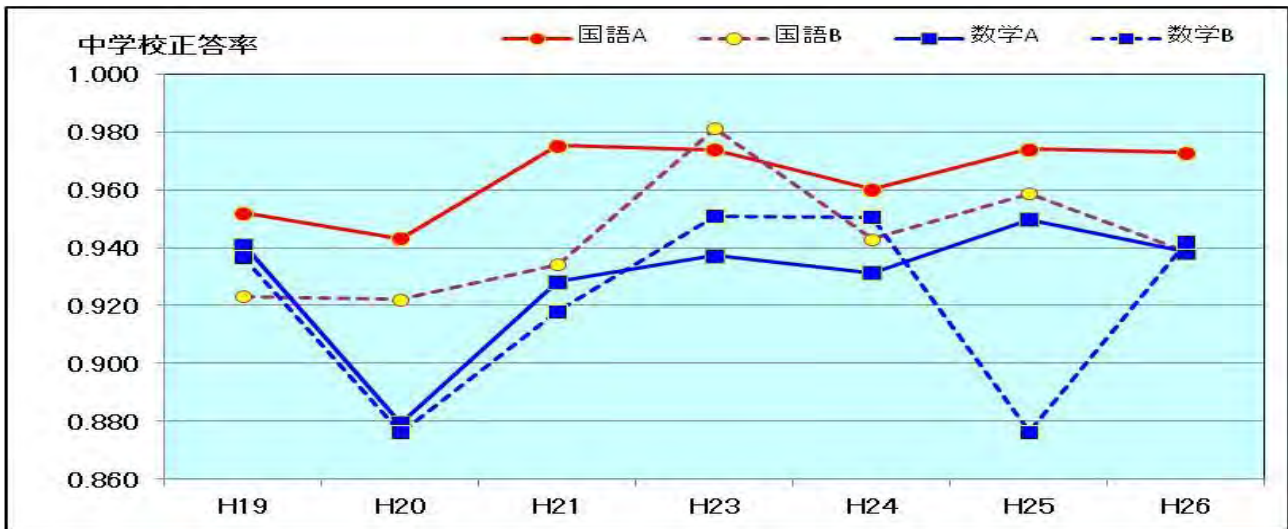
中学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第3学年 平成22年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査			
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0

数学	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査			
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、2教科とも大阪府や全国の平均を下回っている。昨年に比べ、数学Bは平成24年度レベルまで回復してきているが、その他の国語AB、数学Aについてはややポイントが下がった。

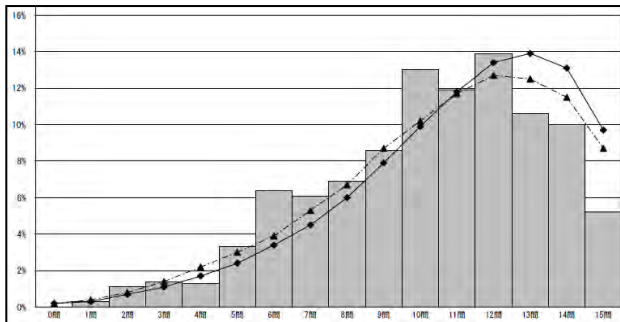
3. 課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語A	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する設問の正答率 48.2% (-6.1)
国語B	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄を記述する設問の正答率 21.6% (-6.8)
数学A	円錐の体積と円柱の体積の関係を理解しているかどうかをみる設問の正答率 24.7%(-14.0)
数学B	証明の過程や結論を基に、発展的に考える設問の正答率 20.9% (-3.4)

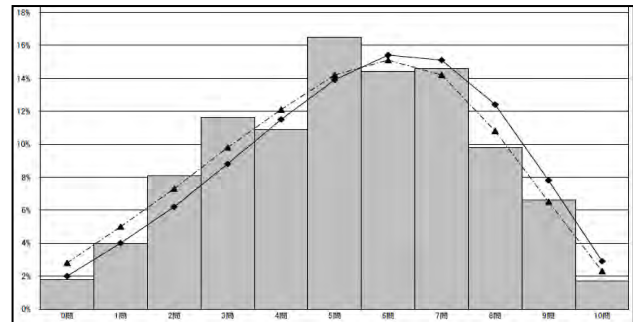
小学校 国語

A 問題の平均正答率は 68.4%、B 問題の平均正答率は 52.5%で、大阪府や全国をやや下回っているものの、特に B 問題についてはほぼ同じ程度まで伸びてきている。また、学力上位層が少なく、領域別では「読むこと」に課題がある。

1、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○ A・B 問題とも、大阪府や全国と同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全15問)				B問題(全10問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	70.4	72.4	69.1	1.019	3	48.9	51.2	49.2	0.994
	書くこと	3	69.0	72.2	69.0	1.000	3	29.5	34.4	30.3	0.974
	読むこと	2	60.9	68.5	65.7	0.927	7	54.0	57.3	54.0	1.000
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	12	69.5	73.7	71.6	0.971	2	69.2	69.8	67.7	1.022
評価の観点	関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	29.5	34.4	30.3	0.974
	話す・聞く能力	1	70.4	72.4	69.1	1.019	3	48.9	51.2	49.2	0.994
	書く能力	3	69.0	72.2	69.0	1.000	3	29.5	34.4	30.3	0.974
	読む能力	2	60.9	68.5	65.7	0.927	7	54.0	57.3	54.0	1.000
	言語についての 知識・理解・技能	12	69.5	73.7	71.6	0.971	2	69.2	69.8	67.7	1.022
問題形式	選択式	7	60.5	66.6	63.6	0.951	4	60.2	62.1	59.8	1.007
	短答式	8	75.3	78.5	76.9	0.979	3	65.1	67.7	65.2	0.998
	記述式	0	-	-	-	-	3	29.5	34.4	30.3	0.974

○ A 問題では「読むこと」の領域で正答率が低く、B 問題では「書くこと」の領域で正答率が低かった。大阪府と比べてもやはり「読むこと」「書くこと」が低かった。例えば、漢字の読みや故事成語の意味理解、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことに課題が見られた。

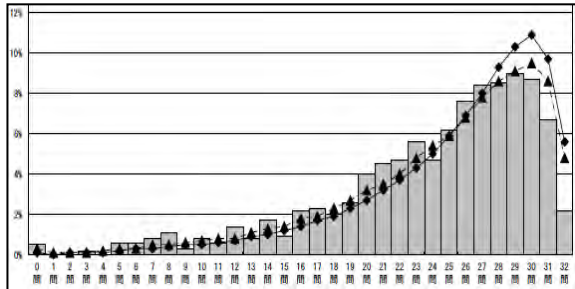
3、成果と課題

国語 A 問題	○文や文章の構成を理解し、適切な表現にして書くことは概ねできている。 ○国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することは比較的できている。 ▲ 漢字の読みや、故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。
国語 B 問題	○二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることができている。 ▲ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことに課題がある。

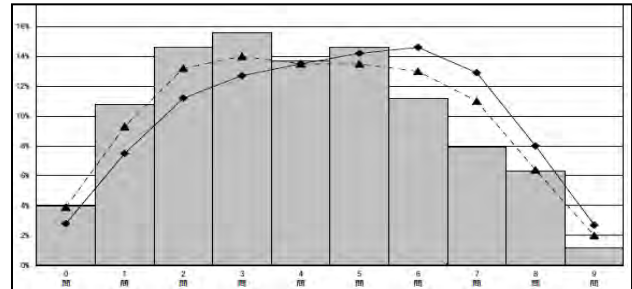
中学校 国語

平均正答率は、A問題で74.9%、B問題で44.3%となっており、大阪府や全国を下回っている。領域別では、特に「読むこと」に課題がある。中でも、資料を読んでその要旨をとらえたり、必要な情報を読み取ることが難しいようである。

4、正答数分布 <A問題>



<B問題>



○A・B問題とも、大阪府や全国と同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分中・下位層が多くなっている。その傾向は小学校以上に顕著になっている。

5、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全32問)					B問題(全9問)				
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	65.2	72.3	69.0	0.945	0	-	-	-	-
	書くこと	6	79.8	83.4	81.2	0.983	3	32.7	41.0	34.4	0.951
	読むこと	5	79.0	82.9	81.7	0.967	8	42.0	49.2	45.0	0.933
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	74.2	78.7	76.0	0.976	4	50.3	56.8	52.2	0.964
評価の観点	関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	32.7	41.0	34.4	0.951
	話す・聞く能力	4	65.2	72.3	69.0	0.945	0	-	-	-	-
	書く能力	6	79.8	83.4	81.2	0.983	3	32.7	41.0	34.4	0.951
	読む能力	5	79.0	82.9	81.7	0.967	8	42.0	49.2	45.0	0.933
	言語についての知識・理解・技能	17	74.2	78.7	76.0	0.976	4	50.3	56.8	52.2	0.964
問題形式	選択式	20	78.8	83.2	80.9	0.974	6	50.2	55.9	53.5	0.938
	短答式	12	68.4	73.1	70.5	0.970	0	-	-	-	-
	記述式	0	-	-	-	-	3	32.7	41.0	34.4	0.951

○ A問題では「話すこと・聞くこと」で正答率が低く、B問題では「読むこと」の領域で正答率が低かった。例えば、B問題で正答率および対府比が最も低かったのは、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことが求められるという、「適切な情報を読み取って考えを決められた字数内でまとめて書く」設問であった。

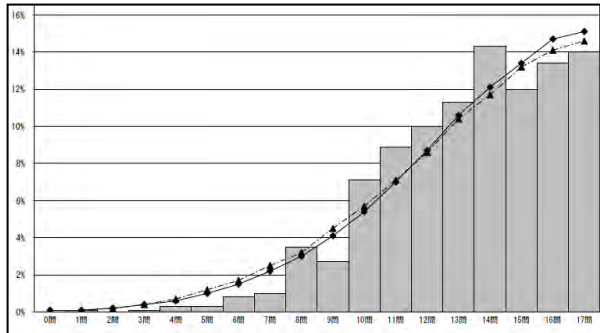
6、成果と課題

国語 A 問題	○文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることは概ねできている。 ▲「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討し、共通点や相違点を整理すること」に課題がある。
国語 B 問題	○「比喩や反復など表現の技法について理解している」 ▲「複数の資料を比較して読んで要旨をとらえたり、適切な情報を得て伝えたい事実や事柄を書くこと」に課題がある。

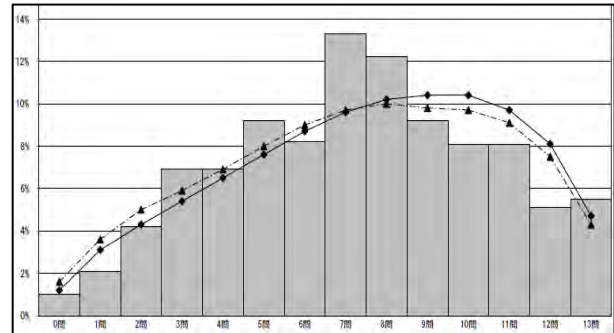
小学校 算数

A 問題の平均正答率は 78.7%、B 問題の平均正答率は 56.1%で、A 問題の正答率については、昨年に続き全国のレベルに達している。一方、活用の力が問われる B 問題は、府の平均をわずかに下回っており、比較的中位層が多いことがわかる。

7、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



- A・B 問題とも、大阪府や全国と同じような傾向であるが、A 問題は中位層が多く、B 問題は学力上位層が比較的少なく、その分、中位層が多くなっている。

8、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全17問)					B問題(全13問)				
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	82.7	81.8	81.7	1.012	8	59.5	61.3	59.3	1.003
	量と測定	3	73.5	74.8	73.3	1.003	5	55.3	56.5	54.9	1.007
	図形	4	72.7	71.8	71.0	1.024	1	61.5	65.7	63.3	0.972
	数量関係	3	84.1	81.3	79.6	1.057	5	53.8	56.2	53.7	1.002
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-	-	6	46.5	47.8	45.6	1.020
	数量や図形についての技能	8	90.2	87.9	87.1	1.036	4	74.5	76.2	74.3	1.003
	数量や図形についての知識・理解	9	68.4	69.5	68.5	0.999	3	50.9	54.8	53.5	0.951
問題形式	選択式	8	70.8	70.7	70.1	1.010	4	61.8	64.7	63.6	0.972
	短答式	9	85.7	84.8	83.6	1.025	4	60.0	62.2	60.4	0.993
	記述式	0	-	-	-	-	5	48.5	49.7	47.1	1.030

- A 問題では特に「数量関係」をはじめ、全ての領域で府の平均正答率よりも高く、前年度調査に引き続き、全国平均を上回る正答率を維持した。B 問題では「図形」領域で課題が見られ、中でも「選択式」の問題で府平均を下回る結果となった。

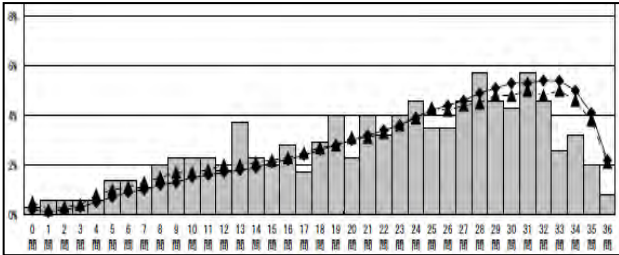
9、成果と課題

算数 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な問題については各領域において理解できており、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考える。 ▲ 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係についての理解に比較的課題がみられる。
算数 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「記述式」の問題形式において府の正答率を上回った。 ▲ 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述する問題について課題がある。

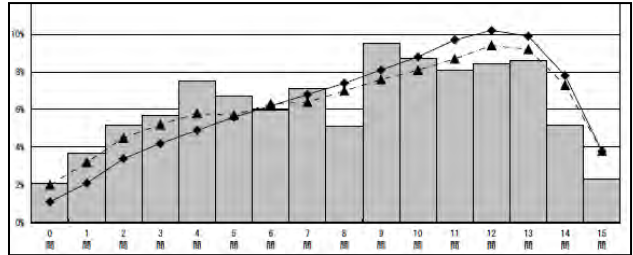
中学校 数学

平均正答率は、A 問題で 61.0%、B 問題 53.6%で、大阪府や全国を下回っている。B 問題では、昨年と比べ一定の成果が見られたが、A 問題・B 問題ともに全領域でポイントが府や全国より下回っており、課題は少なくない。中でも記述式の問題で課題が見られる。

10、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○ A・B 問題とも、概ね同じ傾向であるが、学力上位層や中位層が少なく、その分下位層が多くなっている。

11、分類・区分集計結果

分類	区分	A問題(全36問)				B問題(全15問)					
		設問数	平均正答率(%)			対府比	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領 の領域等	数と式	12	71.5	77.4	75.2	0.951	3	49.3	56.9	54.1	0.911
	図形	12	59.5	66.4	63.7	0.934	5	54.9	58.6	56.8	0.967
	関数	8	51.9	58.0	55.7	0.932	5	55.6	64.4	60.3	0.922
	資料の活用	4	51.7	59.1	56.8	0.910	2	51.8	55.9	52.7	0.983
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-	-	14	51.5	57.9	55.0	0.936
	数学的な技能	15	61.9	68.2	66.1	0.936	0	-	-	-	-
	数量や図形などについての 知識・理解	21	60.3	66.8	64.2	0.939	1	82.5	87.5	83.7	0.986
問題形式	選択式	18	57.9	64.4	61.8	0.937	3	76.7	83.2	80.4	0.954
	短答式	18	64.0	70.4	68.1	0.940	6	57.1	63.3	60.0	0.952
	記述式	0	-	-	-	-	6	38.5	44.8	42.0	0.917

○ A 問題では「資料の活用」で正答率が低く、B 問題では「数と式」「関数」領域で特に正答率が低かった。例えば A 問題で、度数分布表から相対度数を求める問題や、B 問題では、与えられたグラフを、事象に即して解釈する問題を、苦手と感じる生徒が多かった。

12、成果と課題

数学 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「数量の大小を不等式で表すこと」に課題がある。 ▲「円柱と円すいの体積の関係について理解すること」に課題がある。
数学 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「事柄が成り立つか成り立たないかを判断し、説明すること」に課題がある。 ▲「証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄をもとに、発展的に考えること」に課題がある。

生活習慣や意識に関する調査(児童生徒質問紙調査)の結果

主な項目	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べている	96.0	94.1	96.1	87.0	89.9	93.5
毎日同じ時間に寝ている	73.5	74.9	79.2	63.0	71.0	74.1
毎日同じ時間に起きている	89.7	88.6	90.9	87.1	90.2	92.1
テレビゲームをする時間が1時間以上ある(月～金)	59.5	58.0	54.7	64.7	58.6	56.4
携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間が1時間以上ある(月～金)	19.6	19.2	15.1	57.4	53.6	47.7
携帯電話やスマートフォンを持っていない	41.7	38.6	46.3	17.0	15.4	23.5
家で自分で計画を立てて勉強する	53.8	51.1	61.0	40.2	44.8	46.6
授業時間以外に1時間以上勉強する(月～金 塾・家庭教師含む)	56.5	54.0	62.0	52.3	56.3	67.4
授業時間以外に1時間以上読書する(月～金)	44.8	42.8	55.9	13.9	13.0	15.6
国語の授業はよくわかる	74.7	78.1	80.1	65.9	69.3	72.0
算数(数学)の授業はよくわかる	81.0	78.4	79.6	70.9	70.3	71.5
学校に行くのが楽しい	85.9	84.6	86.6	78.5	79.6	82.4
自分にはよいところがある	68.1	73.6	76.1	48.2	61.2	67.1
物事を最後までやりとげてうれしかったことがある	93.0	93.6	94.4	92.0	92.5	93.9
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	71.4	73.0	75.1	60.5	65.4	68.0
将来の夢や目標を持っている	84.6	85.2	94.3	70.8	68.9	71.4
いじめはどんなことがあってもいけないと思う	96.6	95.6	96.4	92.0	91.8	93.4
地域の行事に参加している	52.9	58.5	68.0	35.1	33.3	43.5
家の人と学校での出来事について話をする	80.5	79.1	80.4	70.0	70.7	72.6

「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

今年度実施している学力向上のための取組み

少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。本年度は、信達中学校区において、英語科教員が3小学校の高学年の外国語活動の授業に入り、学級担任とともにチームティーチングの形で授業を展開。児童の外国語への興味・関心が高まり、中学校での英語学習の素地が育成されている。

スクール・エンパワーメント推進事業の実施

大阪府教育委員会のスクール・エンパワーメント推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けた取組みを進める。組織的・計画的に日々の授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などの取組みを進めている。本年度は、一丘中学校で実施している。

理科観察実験支援事業の活用

大阪府教育委員会の支援を受け、小中学校の教員が理科の観察・実験の授業の準備・展開について、1年を通じて研修に参加。小中連携の視点を持ちつつ、魅力ある授業づくりについて学ぶことで、「理科離れ」に歯止めをかけ、「理科好き」な子どもの育成を目指している。

退職校長による若手教員の育成

経験豊富な退職校長が、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスをを行っている。

豊かな人間性をはぐくむ取組み推進事業

大阪府教育委員会の事業を活用して、中学校区における道徳教育公開講座の開催や、道徳の授業づくりに関する研修会を実施している。また、「こころの再生」府民運動と関連した取組みを中学校区を単位に地域と共に推進することで、地域の中で自分が大切にされているという喜びを感じさせ自己肯定感を高めるとともに、道徳教育の充実により思いやりなどの道徳性を育んでいる。

学力向上に向けた重点課題

＜教育委員会の取組み＞

○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、更なる授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施、授業研究における支援や助言、組織的・計画的な校内研修のサポート等、大阪府教育委員会と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。

○小中連携の推進

小中9年間を見通した取組みを構築するために、小中全教職員で中学校区での取組みの交流を進める。学力向上については、担当者を集め、実践報告および中学校区での実践交流を行い、学力調査から見える課題と成果の共有を進める。

○家庭学習の推進

家庭学習の推進のために、児童生徒、保護者向けの手引きを作成・配付し、小中9年間を通して自ら学ぶ習慣をつける。

○読書活動の推進

学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

＜各学校の取組み＞

○学力向上に向けた課題や取組みを全教職員で共有する

全国学力・学習状況調査における成果と課題を踏まえた学力向上の取組みを全教職員で共有し、授業改善を図る。

○「めあて・課題」を明確にした授業の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し、一時間の終わりには、それが達成できたかどうかをふり返る時間を確保する。何を学ぶか、そしてそれが学べたかどうかを明確にし、一人ひとりの学びを確かなものにする。

○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりのつまずきを把握し、朝学習や放課後学習等、授業以外の時間を有効に活用し、基礎基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。